特　集｜ JCP✈台湾縦断スタディツアー開催報告

特定非営利活動法人
文化財保存支援機構機構
季刊誌

NPO JCP NEWS

34

2018.10.10

台湾　鹿港龍山寺

報告 1

平成 30 年度定例総会を開催

JCP の平成３０年度定例総会は、6 月２３日（土）、黒田記念館にて行われました。平成２９年度から九州支部の活動も徐々に本格化し、常勤、非常勤含めて職員も増えました。また、今年度から新たに国士舘大学名誉教授 松本健先生が理事に就任いたしました。これから会員の皆様の活躍の場がますます広がるよう、活動を展開していきたいと思います。

本報告では、改めまして平成 29 年度決算、30 年度予算などお伝えいたします。

◇◇◇

報告 2

平成 30 年度 JCP セミナー「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」

昨年度よりテーマ別に新たなプログラムで開催した当機構セミナー。今年度は「紙」をテーマに、和紙だけではなく取り上げられることの少ない「工業紙」に焦点を当てました。紙の生産現場、流通現場、さらに紙の原材料である楮農家訪問など、今日的な課題を体感できる研修を多く組み込みながら全 4 回行います。

8 月 23 日～ 25 日に基礎講座 / ワークショップ、9 月 3 日に静岡製紙工場見学が行われました。受講者は基礎講座が 29 名、製紙工場見学が 13 名と、昨年を上回る受講者が集まりました。

基礎講座 / ワークショップでは、文化財保護制度を学び、紙研究のエキスパートである講師陣による講義と保存箱製作ワークショップが行われました。静岡製紙工場見学では、特種東海製紙株式会社の製紙工場内部と開発されてきた紙の歴史を体感できる Pam を見学しました。

全国の図書館や公文書館では、館蔵資料の保存と公開が急務であり、酸性紙問題にも必ず直面します。本セミナーが受講者皆様の保存活動の一助となれば幸いです。

セミナーの詳しい様子は JCP ブログにてお伝えしておりますので、どうぞご覧ください。
（http://ameblo.jp/jcpnpo）

そして、11 月には高知研修ツアー、2 月には茨城楮生産現場体験学習を予定しています。下記予告をご覧ください。皆様の受講をお待ちしています。

予告

平成 30 年度 JCP セミナー「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」
Ⅳ．茨城楮生産現場体験学習

今年度も折返し地点。当機構セミナーも基礎講座 / ワークショップと静岡製紙工場見学が終了し、高知研修ツアーが開催目前、高知研修ツアーは HP やチラシ等でお知らせしております。今回は 2 月の「茨城楮生産現場体験学習」のご案内です。

紙の原材料である楮農家訪問、文化財修理にも用いられる西ノ内紙を漉く工見学房をメインに、茨城大子の自然をも体感する 2 日間です。

日程：2019 年 2 月 7 日（木）～ 8 日（金）
2/7（木）　常陸大子駅集合
　　大子那須楮保存会（斎藤様方）にて体験学習
2/8（金）　AM 袋田滝見学
　　PM 茨城県無形文化財 西ノ内和紙「紙のさと」にて研修

詳しくはセミナー専用 HP（https://npojcp.wixsite.com/seminar2018）で確認できます！皆様の受講をお待ちしています。

那須楮

特集 台湾縦断スタディツアー

2017 年度事業の一環として 2018 年 4 月に催行した「台湾縦断スタディーツアー」。台北の故宮博物院をはじめ、2015 年 嘉義に開館したばかりの故宮博物院南院、JCP で修復支援を行った鹿港龍山寺、台中の国立台湾美術館などを巡りました。4 月 18 日から 21 日の 3 泊 4 日、参加者は 15 名、事務局 2 名総勢 17 名です。JCP 九州支部長の本田光子氏を副団長に迎え真夏へと向かう台湾へ行ってきました。

1

台湾桃園空港到着後、バスで九份老街へ。台湾の北に位置する九份は、雨の多い地域ですが、この日は降られずに階段を上がって行くことが出来ました。金鉱山として栄えた一帯はレトロな街並みを残しながら、ジブリ映画のモデルになっているらしいということもあり、観光客に人気です。階段から横に大きく伸びる屋台街は魅力的で、夜景も是非見てみたいです。

ホテルにチェックイン後、皆で小籠包ディナーへ行き、士林夜市も散策しました。

九份老街

2

故宮博物院　保存修復所

２日目は故宮博物院です。現地ガイドさんに展示を案内してもらった後、同館登録保存處處長の岩素份先生に案内いただき、別棟のバックヤードを見学しました。中には４つのラボがあり、収蔵品の分野毎に展示や館外貸与に向けた修復処置を行っていました。掛軸などの東洋画と書跡は日本の表具材料を取り入れ、日本で装潢修理の経験を積んだ技術者も多く在籍しています。複雑な構造をした彫刻作品では、輸送時における梱包も現場の技術者が考え制作していました。膨大な数の文物をアーカイブする貴重な現場を拝見しました。

午後は台中の鹿港龍山寺へ。2001 年に台湾の國立文化資産保存研究中心準備処 (2012 年より國立文化資産保存研究中心) から三輪理事長へ要請があり、JCP 発足間もない時期に彩色剥落止めなどの支援をした経緯があります（NPOJCP News No.1 参照)。國立雲林科技大学の林煥盛先生にその後の保存処置などについてお話しいただきました。処置方法の影響についても記録しているとのことで、台湾におけるオリジナルを保存し継承する修復事例として大変貴重なものでした。夕食は林先生と一緒に客家料理をいただきました。台湾の文化財保存についてなど参加者からの質問にもたくさん答えてくださいました。

故宮博物院　岩素份先生と（前列左から３人目）

3

３日目は台中の国立台湾美術館へ。同館の薛燕玲先生に常設展とバックヤードを案内いただきました。バックヤードを新設しており、収蔵品の保存処置を行なう新たな修復所は細部まで使い勝手を考えられたものでした。収蔵庫にも作品を守るアイデアが沢山あり、参加者と本田副団長は興味津々でした。昼食に薛先生行きつけの創作料理レストランへ。参加者からは、美味しいとの声がたくさん。

バス移動を経て嘉義の故宮博物院南院へやって来ました。台北の故宮博物院の別館として 2015 年に開館、ツアー参加者全員が初めて訪れる場所でした。仏像、磁器、染色など各分野に展示室が分かれており、空間は黒を貴重として展示物に目が行く構成となっています。

国立台湾美術館会議室で美術館紹介ビデオを拝見

国立台湾美術館新設された修復室
本田光子副団長（左から２人目）と薛燕玲先生（中央）

台湾創作料理「膳馨」

故宮博物院南院

故宮博物院南院

国立台湾美術館蕭館長（中央前列右）、
薛先生（後列左端）と

4

4 日目は台南の自由行動です。宿泊したホテルの周辺には、赤崁楼、林百貨店、神農芸術街などがあります。皆さんそれぞれ散策して楽しまれたようです。そして、ついに帰国ということで新幹線に乗って台南から台北へ。所要時間 90 分程度で着くのですね。日本の N700 系に近い車体の帯色は、青ではなく台湾らしい鮮やかなオレンジでした。新幹線の中では駅で買ったお弁当などを食べながら過ごしました。桃園空港では、現地ガイドさんと別れ、それぞれ帰途につきました。参加者の皆様にそれぞれご収穫があったことを祈りつつ、ぎゅっと詰まった旅程ではありましたが、皆様のご協力のおかげで無事催行することができました。ありがとうございました！
（NPO JCP スタッフ　久下有貴）

赤崁楼

新幹線が到着

参加者の声

台湾縦断スタディーツアー

清水千尋
（JCP一般会員、
株式会社 坂田墨珠堂）

大学や会社に入ってから台湾出身の友人が増え台湾への興味が芽生えた矢先、JCPのスタディーツアーの案内をいただいた。ツアーの概要は、建造物や彩色の修理に日本の技術や理念が関わっており、その実物を関係者から直接話を聞きながら見学できる、また博物館バックヤードの見学など、個人では行く事の出来ない内容に魅力を感じ参加を決めた。

台北空港を出てすぐ、台南までのびている立派な高速道路を2階建てのバスで移動した。

街を俯瞰しつつ、緑が豊かで華やかな花が咲く風景に南国に来た実感が湧いてきた。街の雰囲気は中国と日本を合わせたような少しノスタルジックな印象をうけた。

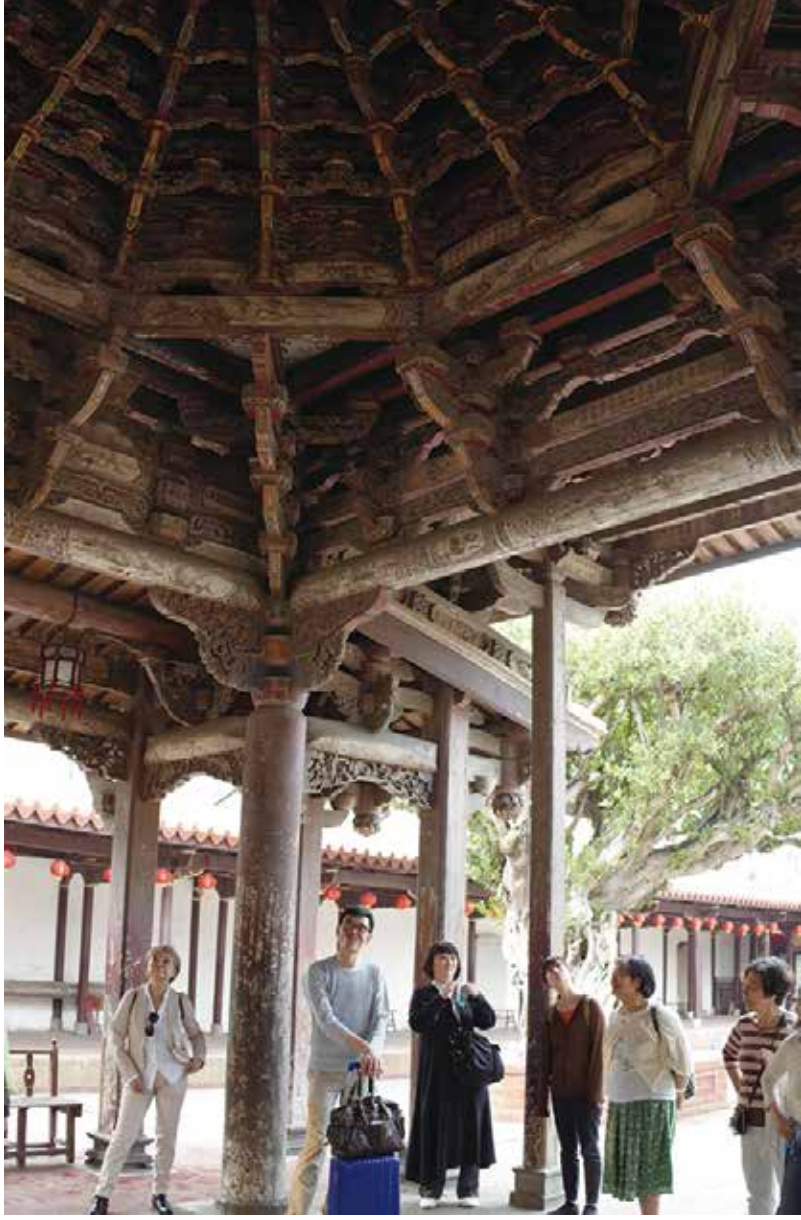
初日はじめに訪れた九份は、積み木のように建物が複雑に立ち上がり、迷路のように入組んだ屋台が並び、どこを向いても沢山の人で賑わっていた。台北では士林夜市を周り、台南では街中にある仏教と儒教の習合した形式のお寺や街を練り歩くお祭りに遭遇し、赤崁楼などその土地の歴史にも触れる事が出来た。

台中に位置する龍山寺の修理事業は、日本と台湾の技術者の協議のもと、日本の修理理念に基づいた修理方針を台湾の建造物修理に取り入れる形で行われた事例であるという。建造物修理は、建材の保護として表面の彩色を塗り替える例をよく耳にする。それに対して龍山寺の修理は、地域の中で大切にされているオリジナルの価値をどのような視点から守り伝えて残していくかを方針決定の指針としている。その方針を軸に、建造物の物理的な保存性を損なわないためのアプローチの転換として、建造物に新たな彩色を行わずオリジナルの絵具に剥落の予防処置を行い、樹脂等による建材の強化を施行している。過酷な環境に晒される建造物の修理における事業の規模に対して、維持を含めた保存性とものの価値の保存を両立していくことの重要性と難しさを感じた。

今回のツアーで楽しみにしていた、故宮博物院、国立台湾美術館、故宮博物院南院を巡り、台湾の文化財の規模と作品の持つ迫力に圧倒された。中でも特に注目していた台北の故宮博物院ではバックヤードと修理室を、台中の国立台湾美術館では収蔵庫や修理室、前室などを見せて頂いた。故宮博物院では応急修理として表具の裏面から折れている箇所に細い紙の帯を当てがい補強する様子や、修理中の横幅が5メートルほどもある掛幅の軸など、実際の作業について目にする貴重な体験だった。修理材料について、表具に使う楮や青檀の紙の使用方法などは台湾との気候の差や材料の生産地、輸入先などが少しずつ異なることで、日本で学んでいる内容との変化を生むのだろうと感じた。

国立台湾美術館は現代美術の作家の企画展が行われており、大きな立体作品が印象的な配置で並んでいた。館の活動として、収集活用や保存への取り組みなどに加えて、小さい子供や体の不自由な方、多分野や世代を越えて美術館が広く活用されるための様々な企画を考案している。展示室に入って驚いたのは、良く目にする音声案内や文字によるキャプションの他に、映像による作品の説明と手話による案内が作品毎にあり、美術館が観覧者へ寄り添う姿勢が伝わってきた。

今回のツアー全体を通して、日本と台湾の深い交流の歴史を感じ、台湾の文化財に対する考え方の柔軟さと新しいことを多角的に取り入れてゆく積極性を学ぶ事が出来た。



修復を行った彩色部の説明をする林煥盛先生（左から２人目）

故宮博物院に入る前「バックヤードが楽しみなのよね。」という一行の中の声。私には耳慣れぬ言葉。一体それは何物？博物院見学後修復現場を見させていただいた時に、今回の旅行に参加されている方々の御仕事を垣間見て私は凄い方々と凄い所を見学させていただいているのだと心が震えました。

鹿港の龍山寺では台北からわざわざお見えになった先生から、現状を残しそれ以上に劣化させない修復と創建時の姿によみがえらせる方法のいずれにするかで土地の方々も交え議論を重ね、現在の姿で残す修復になったと伺い修復法の奥深さに触れました。そして今年三月に奈良の薬師寺で観た東塔と西塔を思い出すことでした。龍山寺の天井、戯台、竜のまきついた柱、庭の囲いの柱一つ一つに立つ小さな修行僧、どれもこれも見あきない物ばかりで「台湾の紫禁城」の異名をとったとの事に納得することでした。ここの修復にも日本の文化財保存支援機構からのいろいろのお手伝いがあったと知り私たちの知らぬ所で国際交流は盛んに行われているのだと感動しました。

国立台湾美術館では絵画の修復作業現場や、温度湿度等で管理整理された数々の収納庫を見させていただきました。中には雨の日の傘をビニールでカチと包むように靴を機械でパチンとカバーして入室する所もあり面白いでした。その後の創作料理の昼食の席で偶然学芸員の可愛いい薛燕玲先生のお隣に着席、楽しいおしゃべりをさせていただきました。日本で、大学と院あわせて六年間学ばれたと伺いうれしくこれこそが平和の礎になるのだと実感しました。嘉義の故宮博物院南院では陶器と布を主に見学、時間に制約され慌ただしかったのが心残りでした。

帰鹿後「バックヤード」を知らないと答える友人達に文化財修復とその支援機構、今回見聞きしたことを一生懸命伝えています。この歳（82）になって本当に貴重な高度な経験、勉強をさせていただきました。心より御礼申し上げます。有難うございました。

台湾スタディーツアーに参加して

市來淑子（元高校教諭）

妹から「姉ちゃん台湾旅行に行かない？三泊四日で最終日の台南では自由行動よ。」との電話に私は二つ返事でOK。といのも私は昭和二十一年三月に鹿児島に引き揚げるまで台南で育ちました。四年生の八月、日本の敗戦で疎開先から台南市に戻ってきた時には北門町にあった自宅は爆弾で破壊、南門町にある親戚宅に身を寄せました。そこから近くの南門小学校には行かず以前在籍していた北門町の花園小学校まで通いました。子供の足で三十分以上あったと思います。今考えますと戦後の混乱期でも台南の治安はよかったのですね。学校では天皇陛下の御真影は蒋介石総統の写真に、掲揚台の日の丸は晴天白日旗に、君が代は三民主義に変わりましたが。…このような個人的理由で参加した今回の旅行、終わってみれば郷愁どころではない中身のぎゅうぎゅう詰まった実に奥深いものでした。

報告 3

三輪嘉六理事長　韓国国立中央博物館にて講演

去る６月１日（金）、当機構理事長 三輪嘉六が韓国国立中央博物館に招聘され、講演を行いました。この講演会は、同館が毎年各国から著名な博物館学の専門家を招いて開催しているもので、２００９年から行われています。講演会のみならず、同館スタッフとのミーティングやオプショナルツアーも含め、３泊４日の行程で招待されました。

三輪理事長の講演は、「日本の文化財保存の伝統－動産文化財を中心に－」というタイトルで、通訳を含め約１時間行われました。日本で７、８世紀からの動産文化財が伝世品として今日に伝わっているのは、曝涼などの生活習慣や行事に加え、人々の文化財に対する愛情と高い修理技術、その技術を支える素材の存在などであることを述べ、同様に伝統を重んじる韓国の聴衆に深い感銘を与えたようでした。昨今ともすれば観光利用に傾く日本の文化財政策を意識してか、適正な保存のための修理がなされて展示・活用ができるのであって、活用してボロボロになったから修理するということではない、と強調されていたのが印象的でした。

韓国の文化財界には、日本に留学したり共同研究をしたりと、親日家がたくさんいらっしゃいます。当日は三輪理事長と長いお付き合いをしている専門家が大勢会場に駆けつけ、旧交を温めていました。

韓国国立中央博物館で講演する三輪嘉六理事長

修復が完了した南大門

韓国北村にある東琳メドゥプ（組紐）工房
上は組紐を編む館長の沈英美（シム・ヨンミ）氏

翌日には理事長のリクエストで、ソウルの南大門を訪れました。南大門は 10 年前に放火により焼失したのですが、すっかり復元されて、彩色も美しく施されていました。日韓の複雑な歴史を背負った門ですが、韓国の文化財専門家の手により立派に復興を遂げたことに、三輪理事長も感慨深げでした。

今回は仕事以外でも韓国の友人に大変お世話になりました。案内されたソウル市の発展ぶりは目を見張るばかり。南青山顔負けのおしゃれなエリアもあれば、伝統的建造物を保存している地区で、人間国宝級の技術者が伝統工芸を護っている工房にも出会いました。

参鶏湯も美味しかったです！是非皆様もお隣の国を訪れてみてください。

※南大門：李氏朝鮮時代の 1398 年に完成。正式名称は崇礼門。都の正門としての役割を果たしていたが、1907 年日本の皇太子行啓に伴う道路整備で両側の塀が撤去され、門だけが残った。朝鮮戦争でも難を逃れたが、2008 年、放火により焼失。文化財庁の復元工事により、2013 年再建された。

新理事ご挨拶― 松本 健 理事

ヨルダン・ウムカイス遺跡にて

松本健と申します。このたび理事を仰せつかりました。西アジア考古学を専門にしております。今までにイラクでの発掘調査、レバノンでの遺跡の分布調査、ヨルダンでの発掘調査などをおこなってきましたが、2003 年のイラク戦争によるイラク博物館の略奪、遺跡の破壊、盗掘などの問題をユネスコ主催のイラク文化遺産復興支援調整会議のメンバーとして携わってきました。同時にヨルダン、ウム・カイス遺跡において JICA 主催のイラク文化遺産復興のための第 3 国研修を 5 年間行ってきました。近年はシリア、イラクでの IS による文化遺産の破壊が行われ、大きな問題となっています。イラクでは 2017 年に IS がようやく制圧され、イラク国内も落ち着いてきましたが、同時に北イラクのモスルの復興が今後の重要課題となっています。先日、9 月 10 日にもユネスコ、パリでモスルの復興会議が開催され、各国に文化遺産修復支援が求められました。日本は、東南アジアでの文化遺産修復に貢献してきた実績もあり、支援、協力できることがあると思います。私も JCP の会員の皆様とともに、文化遺産の修復事業やそれら教育指導を行っていければと思っています。よろしくお願い致します。

松本 健 先生

国士舘大学・名誉教授

1972 年 3 月：国士舘大学文学部史学地理学科卒
1975 年 4 月：国士舘大学イラク古代文化研究所・助手
2018 年 3 月：国士舘大学イラク古代文化研究所・教授、退職
2018 年 6 月：国士舘大学名誉教授

編集後記

（久下有貴）スタッフとして、参加者としても初めてのスタディツアー。JCP 発足当時に修復支援を行った経緯があり文化交流のある台湾へ行けたことは大変意義深いものとなりました。JCP の歩んで来た歴史とともに、国外における活動を体感したことは、自身の文化財保護活動にとって良い刺激となりました。参加者の皆様との交流も楽しく、支えて下さった皆様に感謝です。また、セミナーも前半の 2 回目までが終了し、11 月には日本有数の紙の生産地である高知、2 月には茨城大子の原材料生産現場に伺います。次回はこれらの開催報告も掲載しますので、年度末に次号を発行したいところです。

（八木三香）JCP 第 1 回目のスタディツアーとして訪れた台湾を、再び訪問地として選びました。何か時代が一巡したような気持ちです。

次号は九州支部の取り組みについてもご紹介したいと思っています。どうぞご期待ください。

謝辞

スタディツアー開催にあたり、歓迎そしてご案内いただきました台北故宮博物院岩素份先生、洪順興先生、蔡旭清先生、台湾国立美術館蕭宗煌館長ならびに薛燕玲先生、國立雲林科技大学の林煥盛先生に厚く御礼申し上げます。また、ご協力いただきました関係の皆様にも心より感謝申し上げます。また韓国では、韓国中央博物館の裵基同館長、朴鶴洙先生、金姫正様、魯禔玹様にお世話になりました。李午憙先生、金壽起先生、朴智善様には、お忙しい中ソウルをご案内頂き、短い旅を満喫することができました。記して深謝申し上げます。

ご入会ありがとうございました。

（平成 30 年 9 月 10 日現在入会者数）

- 理　　事　　8 名
- 維持会員　　14 名（役員含む）
- 登録会員　　141 名
- 一般会員　　128 名
- 学生会員　　58 名
- 監　　事　　1 名
- 評 議 員　　1 名
- 賛助会員　　26 件

株式会社　宇佐美松鶴堂
株式会社　宇佐美修徳堂
株式会社　岡墨光堂
株式会社　桂文化財修理工房
有限会社　紙資料修復工房
京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター
国富株式会社　長崎営業所
株式会社　光影堂
一般社団法人　国宝修理装こう師連盟
修理工房　宰匠株式会社
株式会社　坂田墨珠堂
株式会社　松鶴堂
株式会社　修護
株式会社　修美
中部資材株式会社
株式会社　東都文化財保存研究所
株式会社　トリアド工房
日本通運株式会社　美術品事業部
株式会社　半田九清堂
長谷川　聡
百元　節
株式会社　フレンドトラベル
株式会社　文化財保存
山領絵画修復工房
他　個人２名（アイウエオ順）

ご寄付をありがとうございました。

- 繊研古代史研究会　様
- 住みよい地域づくり推進協議会　様
- 個人　９名様

NPO JCP の活動に参加してみませんか？

■登録会員：年会費　　7,000 円
文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。
登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。

■一般会員：年会費　　5,000 円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

■学生会員：年会費　　3,000 円
大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。

□会員特典：情報誌の送付
講演会／研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、ファックス、電話、メールにて申込用紙をご請求ください。折り返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申込ができます。
TEL：03-3821-3264　／　FAX：03-3821-3265
E-mail：jimukyoku@jcpnpo.org ／ URL：www.jcpnpo.org

※現在 JCP では、東日本大震災、熊本地震その他の被災文化財救援募金を受け付けております。ご連絡頂ければ、振込料無料の振込用紙をお送りいたします。
皆様の暖かいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。
※この他にも、随時寄附を受け付けております。
下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

- 郵便振替　　００１２０-４-１０５４５
  NPOJCP
- 三菱東京 UFJ 銀行　　四谷三丁目支店
  普通預金　　３９６０３４０
  特定非営利活動法人　文化財保存支援機構
  理事　　三輪嘉六
- みずほ銀行　根津支店
  普通預金　　１７２７８９３
  特定非営利活動法人　文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS vol.34
2018 年 10 月 10 日発行

特定非営利活動法人
文化財保存支援機構

事務局所在地
本部
〒 110-0008
東京都台東区池之端 4-14-8　ビューハイツ池之端 102 号
TEL：03-3821-3264 / FAX：03-3821-3265
Email：jimukyoku@jcpnpo.org

関西支部
京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター内
TEL：　075-791-8519

九州支部
〒 810-0014
福岡県福岡市中央区平尾 2-2-18 シティマンション平尾１　302 号
TEL：092-791-5663 / E-Mail：kyushushibu@jcpnpo.org

役員構成

理　事	三輪　嘉六（理事長）
	大林 賢太郎（副理事長・関西支部長）
	西浦　忠輝（副理事長）
	沢田　正昭
	本田　光子（九州支部長）
	増田　勝彦
	松本　健
	三浦　定俊
評議員	田邉 三郎助
本部事務局	八木　三香（事務局長）／松本　洋子
関西支部事務局	伊達　仁美（事務局長）
九州支部事務局	松尾　かをる
編集協力	久下　有貴　／　米澤麻由子